

(撮影/トム岸田・冥賀明子)



会場となった東京美術倶楽部正面



開場前から長蛇の列が...



四階受付も大盛況



休憩所もかくのごとき賑わい

第31回「大刀剣市」を開催

東京美術倶楽部に三千人超の来場者を迎えて

各地で秋の祭典が盛んに行われる中、東京・新橋の東京美術倶楽部において、全国刀剣商業協同組合の主催する恒例の第31回「大刀剣市」が十一月十六日(金)～十八日(日)の三日間、開催されました。

全国各地から七十三店舗の組合員が出店され、連日多くのお客さまで賑わいました。翌週の二十四、二十五の両日には公益財団法人日本美術刀剣保存協会(酒井忠久会長、以下「日刀保」)の第二回全国大会が開催される

とあって、日刀保の海外会員の方々の来日も例年より多く、相乗効果も相まって、三日間で延べ三千人以上のご来場を頂きました。

今年には明治維新から百五十年となる記念すべき年でもあり、さまざまなメモリアルイベントが開かれています。当組合でも会期中に特別展として「明治百五十年 明治時代から平成時代の刀匠」展を重文室にて開催しました。

特別展示として、昨年の九月にロシアのプーチン大統領から安倍総理に贈られた村正の短刀を陳列させていただきました。ご出品にご協力くださいました皆さま方に厚く御礼申し上げます。

初回の大刀剣市以来、後援を頂いた久松義一氏、お祝いの生花を頂戴し、刀剣武具類一色の会場内に、文字通りの華を添えていただきました。産経新聞社が提唱して設立された、心臓病などの難病に苦しむ子供たちを救うための「明美ちゃん基金」募金箱を、今年も設置させていただきました。

今回は会場を巡る積極的な募金活動を行わなかったためか、例年よりも少額ではありましたが、皆さまから頂戴した浄財は基金に寄託させていただきます。出店者の方々に今年の成果をお聞きしますと、販売商品の点数・総額ともに例年よりも好結果だったとのことでした。来場されるお客さまを飽きさせないよう、品揃えなどに趣向を凝らした出店者個々の営業努力の結果だと思われまふ。

また、近年は法改正により開催可能になりました。開場すると予想以上のお客さまが鑑定依頼に見えられ、鑑定を担当した理事の方々に、ご自身のお店の商いを控えてまで真摯に対応していただきました。

このほか、カタログ制作、会場設営等の実行委員の仕事には、次世代を担う若い組合員が自主参加してくださりました。お客さまにも喜んでいただけ、毎年の大刀剣市を成功に導いてくださったのは、奉仕の精神で協力されるこのような組合員・役員のおかげと心から感謝します。

本年も全国刀剣商業協同組合への一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。(大刀剣市) 実行委員長・嶋田伸夫



NEWS, TOPICS, INFORMATION, OPINION & EDITORIAL
2019.1.15 No.45
発行人 清水 儀孝
発行所 全国刀剣商業協同組合 編集委員会
〒169-0072 東京都新宿区大久保2-18-10
新宿スカイプラザ1302
TEL:03(3205)0601 FAX:03(3205)0089
http://www.zentoshu.com/

第45号編集担当 赤荻 稔 飯田 慶雄
伊波 賢一 大平 岳子 大平 将広 木村 義治
佐藤 均 嶋田 伸夫 清水 儀孝 生野 正
瀬下 明 土子 民夫 網取 讓一 土肥 富康
服部 暁治 松本 義行 冥賀 吉也 持田 具宏
編集顧問/ 深海 信彦

資格認定事業担当 赤荻 稔 飯田 慶久
伊波 賢一 大平 岳子 大西 康一 木村 義治
佐藤 均 猿田 慎男 嶋田 伸夫 清水 儀孝
生野 正 瀬下 明 土子 民夫 網取 讓一
土肥 豊久 服部 暁治 深海 信彦 松本 義行
冥賀 吉也 持田 具宏 吉井 唯夫

全日本刀匠会の「現代刀匠による銘切りの実演」もおなじみとなり、文鎮などに鑿で文字を刻む独特な音色が耳に心地よく響いていました。

頂いている産経新聞社とフジサンの「現代刀匠による銘切りの実演」もおなじみとなり、文鎮などに鑿で文字を刻む独特な音色が耳に心地よく響いていました。

第1回「刀剣評価鑑定士」認定試験は4月17日に実施します

理事会・実行委員会等において3年以上にわたって検討を重ね、既に3回の模擬試験も実施してきた「刀剣評価鑑定士」資格の第1回認定試験は、来る4月17日(水)に東京美術倶楽部で実施します。奮って参加されますよう、ご案内します。

- ①受験資格 組合加入期間が5年以上の組合員もしくは賛助会員で、古物商許可証取得後5年以上の経験がある者
- ②受験料 1万円
- ③試験問題 二肢択一式100問
- ④試験時間 60分
- ⑤合格点 100点満点の80点以上(認定委員会で審査し最終認定する)
- ⑥認定発表 試験の2週間以内に本人宛通知。本紙・組合ホームページに掲載する
- ⑦問題集 模擬試験問題3回分を編集して頒布(〒とも1,000円)

※受験手続きについての詳細は本紙次号で発表します。

刀剣 高吉

古名刀から現代刀、御刀のことならお任せください!
連絡先 090-8845-2222
代表者 高島吉童
東京都北区滝野川7-16-6
TEL 03-5394-1118
FAX 03-5394-1116
www.premi.co.jp

刀剣・書画・骨董 和敬堂

土肥豊久・土肥富康
〒940-0088 新潟県長岡市柏町1-2-16
TEL 0258-33-8510
FAX 0258-33-8511
<http://wakeidou.com/>

美術刀剣・刀装小道具商 やしま

齋藤雅稔・隆久・隆洋
刀装小道具通信販売目録「やしま」
年間10回発行予定
購読料10回 2,000円(郵便切手可)
〒202-0022 西東京市柳沢6-8-510
TEL 042-463-5310
FAX 042-463-7955

町田久雄

埼玉県秩父市野坂町一十六-二
西武秩父駅連絡通路町久ビル内
TEL 0494-133130
FAX 0494-133067

三峯美術店

大阪府中央区日本橋二丁目一
TEL 06-6631-2210
FAX 06-6644-5464

大阪刀剣会 吉井唯夫

美術刀剣、小道具、武具類の
売買、加工及び御相談承ります

刀 剣 界

目玉はプーチン大統領から贈られた短刀「村正」

恒例の重文室特別展は、明治元年から起算して満百五十年を記念し、国が推進する関連施策に沿って「明治時代から平成時代の刀匠展」を開催しました。

明治以降の日本刀を取り巻く環境はまさに栄枯盛衰。磨刀令による刀職たちの転廃業、ウィーン万博への刀剣出品や皇室技芸員制度による保護奨励、関東大震災に伴う焼失、軍刀需要、そして敗戦に伴う刀剣接収。戦後は登録制度による刀剣の所持と美術刀剣の製作が可能になり、重要無形文化財保持者の認定制度も整いました。

この荒波の百五十年間の刀剣界を象徴するのは、明治元年の固山



特別出品の村正の短刀と合口拵

「明治150年—明治時代から平成時代の刀匠」出品目録

種別	銘文	刃長
刀	固山備前介藤原宗次作時六十六作 明治紀元歳次戊辰嘉平月日 於東京飯倉	2尺2寸7分
刀	於古河城中泰龍斎宗寛彫同作 明治元季十一月日	2尺3寸6分5厘
刀	栗原筑前守平朝臣信秀 明治二年八月日	2尺1寸5分強
刀	(菊水紋)於楠公神社 月山源貞一精鍛之 明治十八年六月日	2尺3寸4分強
刀	龍王子源貞次(花押) 昭和癸巳年二月日 彫物同作 一劍倚天寒	2尺3寸弱
太刀	伊勢寅彦使 信州住人宮入昭平作之 干時昭和三十四年二月吉日	2尺5寸
刀	大阿月山源貞一作之(花押) 昭和五十二年五月吉日	2尺4寸2分
刀	豊永東左行秀 為崎子幾馬 明治三年二月吉日 行年五十八歳造之	2尺1寸5分
短刀	村正	7寸8分強
刀	大日本兼定 紀元二五五八年八月日	2尺2寸9分
太刀	備前国包平作 平成七年八月日 傘笠正峯	2尺9寸4分
太刀	後平 昭和五十五年十月廿二日 昭和五十三年度操業日刀保タタラ玉鋼試作刀	2尺5寸4分
太刀	天田昭次作之 昭和五十六年二月吉日	2尺5寸
刀	八十三翁近江国風吉作 明治三十六癸卯年二月日	2尺1寸
刀	因州宮本能登守藤原包則 君万歳 慶応四年正月日 於江州御陣中鍛之	2尺2寸8分
刀	靖広 以高純鎮作之 昭和十三年四月吉日	2尺1寸1分
刀	靖徳 昭和十七年五月吉日	2尺0寸2分
刀	為奉祝聖紀二千六百年鉄火道人 敷四等 昭秀謹作(刻印) 昭和十五年十一月吉日	2尺4寸2分
短刀	旭丸 和泉守兼定 明治四辛未年五月十四日 南無不可思議光如来 (棟)越上条東口延成需加黄金造之	8寸8分強
短刀	帝室技芸員宮本包則七十九歳作 明治三十三年二月七日生 為飯野慶子君	5寸8分5厘
短刀	源胤明作 大正五年二月日	8寸3分5厘
短刀	靖光 昭和十一年十月吉日	8寸4分
短刀	士祐義 寿八十三作 大正八年二月	7寸2分5厘
小柄	風竹因 銘 夏雄作	
小柄	熊坂因 銘 攀一蝶翁画意 夏雄(花押)	
鐔	萬因 銘 夏雄	
花瓶	千羽鶴因 金印銘 勝義(正阿弥勝義)	

宗次や泰龍斎宗寛に始まり、平成の人間国宝作まで刀剣二十二振。明治金工の刀装具や花瓶も会場を盛り上げました。

眞寶理事の執筆された解説文と列品リスト千部は早々になくなり、ご不便をおかけしたことをお詫びします。同文が『刀剣界』第四十四号を掲載されているので、ご覧いただければ幸いです。

なお、平成二十九年九月、安倍内閣総理大臣がロシアを訪ねた折



重文室ではゆったりと鑑賞

ロシアのウラジーミル・プーチン大統領より贈られた村正の短刀と黒漆塗鞘合口拵も特別展示されました。

本年は「日本におけるロシアの年」および「ロシアにおける日本の年」であり、各地でさまざまな相互交流が行われています。日本刀は、両国民に重要な文化財として認識されており、友好のシンボルともなっています。

末筆ながら、出品依頼に快く応じていただいた方々には、心から御礼申し上げます。(伊波賢一)

二年ぶりの「我が家のお宝鑑定会」



2年ぶりとおって鑑定員も真剣

「大刀剣市」のイベントの一つである「我が家のお宝鑑定会」が二年ぶりに開催された。

会の内容・役割については以前とほとんど変わらず、鑑定に関しては清水理事長はじめ理事全員が時間交代で担当した。受付は中村栄次氏が担当し、大林幹夫氏と小生が全体の補助役として参加した。天候にも恵まれ、大刀剣市は順調にスタート。お宝鑑定は十一時開始であるが、開場と同時に受付には多くの人が並んだ。

受付件数は三日間で七十九件。ちなみに前回は七十二件であった。参加者には毎回「お宝鑑定を何ぞ知りましたか」というアンケート

トを取っているが、今年はインターネットという答えがトップであった。これまではずっと新聞がトップであったが、初めてインターネットが逆転した。これも時代の流れ、そして参加者の世代交代であろうか。

参考までに付記すると、毎回来た方は十九人、複数回来た方を合わせると三十人を超えている。冷やかない人、ほとんど見かけない人、鑑定員の説明をメモを取りながら真剣に聞いている姿が目についた。

目的を聞くと、鑑定のみを希望する人、売却したい人、いろいろな事情で迷っている人、単に価格

だけを知りたい人、皆それぞれである。

今回初めて、いわゆる出口調査なるものを試みてみた。全員とはいかなかったが、十数人にお宝鑑定の感想を聞いてみた。手前味噌になるが、全員が「ありがたい・良かった・素晴らしい・ぜひ続けてほしい」とのことだった。本音の部分ではわからないが、素直に受け取りたい。

法律の改正もあって、この種の催しは格段にやりやすくなったと思えます。何のトラブルもなく、無事に終了できました。ご協力ありがとうございました。

(赤荻稔)

「大刀剣市2018」へ参加して

一般社団法人日本甲冑武具研究保存会(以下「日甲研」)は、昭和三十六年(一九六〇)に設立された団体である。法律改正によって社団法人から現在は一般社団法人として、東京都新宿区内に事務所を構え、常勤の事務員一人が月曜日から金曜日まで勤務し各種事務を行っている。

平成三十年十一月現在の個人会員は四百人弱、法人会員は岐阜神社ほか六つで、アメリカのメトロポリタン美術館も法人として加入することになっている。国内に広島県・岡山県・東海・近畿の各支部があり、昨年海外支部ができたことにより、フランス・カナダ・アメリカ

平成三十年十一月現在の個人会員は四百人弱、法人会員は岐阜神社ほか六つで、アメリカのメトロポリタン美術館も法人として加入することになっている。国内に広島県・岡山県・東海・近畿の各支部があり、昨年海外支部ができたことにより、フランス・カナダ・アメリカ

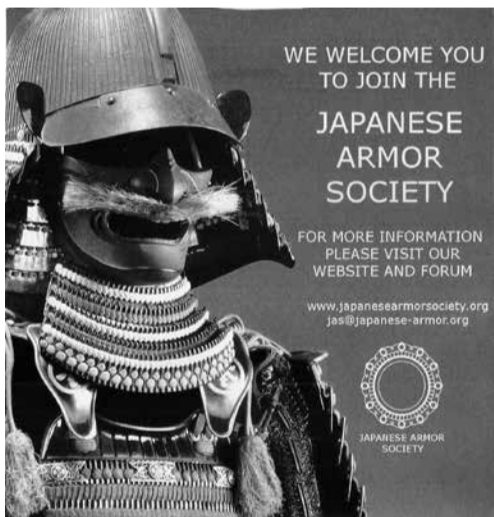
カ・ドイツ・イギリス・イタリアなど十カ国以上に海外の個人会員がおり、海外の会員が急増している。主な活動は、本部や各支部が主催して開催する研究会のほか、公益財団法人日本武道館主催の鏡開き式への協力で鏡開き式を行うほか、小田原城総合管理事務所が管理する常盤木門SAMURAI館へ半年ごとに「日甲研」会員所蔵の甲冑武具を展示協力している。

また、各地の博物館や美術館から甲冑武具関係の企画展への協力依頼があり、会員の甲冑武具の貸し出しや展示作業等の協力を積極的に行っている。最近ではマスコミや個人からの各種問い合わせが増えている。

日甲研が展示協力した博物館・美術館発行で、既に各館で売り切れた図録や最新号の会誌「甲冑武具研究」のほか、今回は海外の美術館で開催された甲冑展の図録や海外支部が出した支部会誌の販売を行った。海外の図録は入手しにくいので、海外の方ばかりか日本人の来館者からも喜ばれた。

図書の販売に加えて、会員募集のため日本語チラシのほか、今回は海外支部が作った英語版のチラシを海外の方へ配布した。

大刀剣市へ出店し、日本刀が海外から高い評価を得ていることを実感する三日間だった。



海外支部のチラシ

三年前の「大刀剣市2016」へ全国刀剣商業協同組合前理事長の深海信彦氏のご配慮で、初めて出店させていたために、搬入のために事務員と二人で東京美術倶楽部へ出かけた

好評だった今年のイベント

全日本刀匠会関東支部では、今年初の「大刀剣市」で毎年恒例の銘切り、各刀匠の小物販売、お守り刀(新作刀)の製作依頼の受付を致しました。

こちらもうれしくなります。ありがとうございました。

小物販売では、ミニチュア鐔が初日に売り切れてしまつたなど、売れ行きも好調でした。

特に銘切り実演は大盛況で、たくさんのお客様にお名前や梵字を切らせていただきました。

賢いお子さんは「一番上手い人が切って!」などと、私たち刀匠もタジタジです。大人の方はこのように要望、ご容赦ください。

皆さまの喜んだ顔を見た刀匠一同、ますます良いものを作るぞ!と決意を新たに致しました。小さいものから大きなものまで、どしどしご注文ください。

また、来年、皆さまのお越しを楽しみにしております。

(刀匠・小澤茂範)



お客さまの要望に応え銘切りにも力が籠もる

時、施設が規模で驚いた。大刀剣市担当の事務の方に出店時の注意事項を伺った際、出店者の男性はネクタイ着用と聞いて格式が高い刀剣市なのだと感じた。

今回の参加で三回目となったが、海外からの来館者の多いことあらためて驚かされた。英語はもちろん、フランス語、中国語等でも話している来館者に、片言ながら英語で対応している店主、中には流暢な英語で商談を進めている方。また、若い女性の来館者が年々増えているように思った。

(一般社団法人日本甲冑武具研究保存会常務理事・棟方貞夫)

出店者から 田澤 二郎 (株)日宝

平成最後の「大刀剣市」を終えて

恒例の「大刀剣市」が終了しました。毎年この時期を楽しみにお待ちだった全国の刀剣ファンの皆さん、ご来場ありがとうございました。

昭和六十三年に第一回が開催されて以来、このイベントを通して諸外国の方々にも刀剣の美しさ、神秘さを一層深く認識していただきました。

昨年は墨田区横網に刀剣博物館が移転開館し、国技館や江戸東京博物館などともに「日本人の心と文化」が集うところとなり、日本刀を世界に強くアピールする条件が整いました。刀剣女子の台頭も影響し、各地の博物館の展覧会



出店ブースの田澤二郎さん・数馬さん父子

進取の精神で刀剣界を盛り上げていくことではありませんか。最後に、大刀剣市の成功に向けて多大なご尽力をされた方々に、深く感謝します。ありがとうございました。

当選者発表

恒例の「大刀剣市」抽選会は、今年も会場では行わず、終了後の十一月二十二日の組合交換会会場にて行いました。

賞品は、全日本刀匠会の製作協力による切り出し小刀・菜切り包丁・真鍮小刀・文鎮・ミニ鐔・玉鋼製勾玉・キーホルダーの十五点でした。

十五名の当選者は次の方々です。賞品は十一月下旬に発送しました。

江口様(兵庫県)・黒岩様(群馬県)・高橋様(町田市)・林様(千葉県)・渡辺様(さいたま市)・国見様(茨城県)・竹花様(長野県)・大久保様(埼玉県)・野口様(さいたま市)・佐藤様(相模原市)・山近様(東京都)・小林様(千葉県)・川崎様(東京都)・片岡様(さいたま市)・多田様(大田区) ほか、来年以後も大刀剣市会場の抽選会の予定はありません。

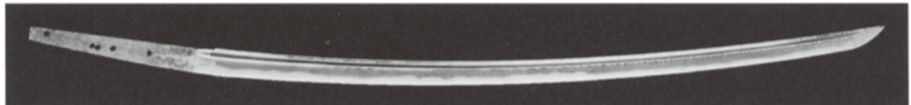


東京美術倶楽部での抽選会の様子

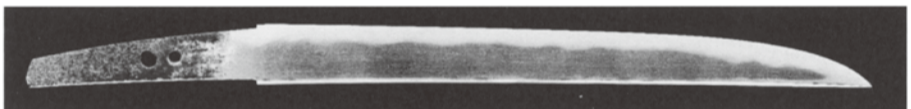
組合こよみ(平成30年11~12月)

- 11月1日 新橋プラザビルにおいて『刀剣界』第44号編集委員会を開催(再校)。出席者、清水理事長・服部副理事長・正野理事・深海顧問・土子氏
- 1日 古物商等警察署別法合講習会に事務局が参加
- 5日 清水理事長と嶋田専務理事が内閣府を訪問し高橋情報官補佐に面会、村正短刀の借用を依頼
- 5日 『産経新聞』購読者への「大刀剣市」入場券十カタログのプレゼント当選者20名に発送
- 7日 清水理事長と伊波副理事長が愛宕警察署を訪問、仮設店舗営業届出書を提出
- 11日 靖国神社御創立150年奉納輪祭に清水理事長・伊波副理事長・服部副理事長・嶋田専務理事が出席
- 16~18日 東京美術倶楽部において第31回「大刀剣市」を開催。各日入場者数1,158、1,138、981、計3,277名
- 21日 東京美術倶楽部において『刀剣界』第45号編集委員会を開催(企画)。出席者、清水理事長・伊波副理事長・服部副理事長・嶋田専務理事・大平理事・正野理事・松本理事・冥賀理事・持田理事・土子氏
- 22日 東京美術倶楽部において組合交換会を開催。参加35名、出来高6,833,800円
- 12月9日 上野精養軒において開催される「小笠原信夫先生を偲ぶ」に生花を贈る
- 12日 東京美術倶楽部において「刀剣評価鑑定士」実行委員会を開催。出席者、清水理事長・伊波副理事長・網取常務理事・飯田理事・木村理事・猿田理事・瀬下理事・冥賀理事・持田理事・赤坂監事・深海顧問・土子氏
- 17日 東京美術倶楽部において組合交換会を開催。参加54名、出来高10,015,500円
- 17日 東京美術倶楽部において第3回「刀剣評価鑑定士」模擬試験を開催。参加30名
- 17日 芝パークホテルにおいて「大刀剣市」反省会を開催。出席者、清水理事長・伊波副理事長・土肥副理事長・服部副理事長・嶋田専務理事・飯田理事・大平理事・正野理事・網取理事・松本理事・冥賀理事・持田理事・赤坂監事・大林幹夫氏・大平将広氏・中村栄次氏・服部一隆氏・藤田裕介氏・冥賀亮典氏・土子氏・事務局2名
- 21日 伊波副理事長・嶋田専務理事・正野理事が産経新聞社を訪問、「明美ちゃん基金」に20万円を寄託

名誉市民の故小松安弘氏が収集



江雪左文字(上)、太閤左文字(下)



「散逸防ぎ後世に残して」

- 小松コレクション■
(☆は国宝、★は国重要文化財)
- ☆短刀 銘国光(名物会津新藤五)
 - ☆太刀 銘筑州住左(江雪左文字)
 - ☆太刀 銘正恒
 - ☆短刀 銘左/筑州住(太閤左文字)
 - ☆太刀 銘則房
 - ☆太刀 銘国宗
 - ☆太刀 銘吉房
 - ★太刀 銘国清
 - ★太刀 銘備前長船兼光/延文三年二月日
 - ★短刀 銘光包
 - ★太刀 銘備前国住長船盛景
 - ★短刀 朱銘貞宗/本阿(花押)(名物朱判貞宗)
 - ★刀 無銘伝来国光
 - ★刀 無銘 伝長義

小松コレクション(福山市曙町)は、食品容器製造の工 創業者が昨年亡くなった。美術館によると、コレクションを所有していた小松安弘(東京)から散逸を防ぎ、まとまった形で後世に残してほしいと申し出があった。11月22日付けで市が寄贈を受けた。

名刀14点 福山市に寄贈

た市名誉市民の小松安弘氏が収集した14点。江雪左文字(太刀)や太閤左文字(短刀)と呼ばれる作品など国宝7点、国重要文化財6点を含み、国内有数のコレクションとして知られる。2007年に同館が寄託を受け、特別展や所蔵品展での展示管理を続けてきた。

寄贈者は小松啓子氏(「中国新聞」平成30年12月8日、中国新聞社提供)

古銭 切手・刀剣 売買 評価鑑定
株城南堂古美術店
代表 **田中勝憲**

〒153-10051
東京都目黒区上目黒四-3-1-10
TEL 03-377-0177
03-377-0177
03-377-0177

日本刀 販売 買取 委託
e-sword (株) e-sword (イーソード) 平子誠之
〒350-1115 埼玉県川越市野田町1-4-19 1F
TEL 049-246-6622 FAX 049-246-1407
<http://www.e-sword.jp>
日本刀 イーソード 検索
mail:info@e-sword.jp

ブック・レビュー BOOK REVIEW

キリシタン大名の盛衰を 異色の作家が描く

『大友の聖将』 赤神諒著 角川春樹事務所 定価(本体二七〇〇円十税)

九州最大の戦国武将大友宗麟の近習となった柴田治右衛門は、美しい外見とは裏腹に、あらゆることを踏み台にして、立身出世を自論の冷徹な若者であった。唯一の不覚は、宗麟の側室マリアを愛してしまっただけ。秘密を知った友を誘い出し惨殺。

「天主とやらに、俺は何もしてやらなかった覚えはない」そう言い放つ治右衛門。そんな彼に、イエス・スズ会司祭トルレスは「人は弱き者たどえ愛していても人を欺き、天主を裏切るものです。それでも人は悔い改め、祈ることができるとです」と語りかけ、悪鬼・治右衛門の心は激しく揺さぶられる……。

著者赤神諒氏は、法字を修め、弁護士資格を持つ異色の作家である。戦国動乱期の武将と信仰をテーマに、九州最大の武将大友宗麟の興亡を、躍動感あふれる筆致で描いたこの小説は、第一部と第二部からなり、伏線が巧みに配置され、不思議な陰影を帯びている。

日の出の勢いの島津軍に押され、丹生島城に籠もった大友勢。その中には、受洗しリインと改名した治右衛門の姿もあった。神ならぬ身のリインは果たして運命を変えられることができるのか。

実際に書けた作品である。豊後大友、キリシタンという切り口は斬新である。

藤周作を思い出し、もう一言。もう少し刀工の個銘を出してほしい。豊後といえは行平、だが、行平だけではなく、「豊後行平」とするべきであろうし、豊後刀が云々として書かれていなかったが、平長盛はじめ優品の数々を遺しており、新古端境期にも高田統景がいるので、もう少し刀工の個銘が表記されれば、臨場感も入ったものではあるまいか。

赤神諒(あかがみりょう)。昭和四十七年東京都生まれ。同志社大学文学部英文学科卒、東京大学大学院法政学研究所修士課程修了、上智大学大学院法学研究科博士後期課程単位取得退学。私立大学教授、法学博士、弁護士。平成二十九年、「義と愛」と「大友二階崩れ」に改題)で第九回日経小説大賞を受賞し作家デビュー。



大友の命運、そとと天主にゆだねる
赤神諒

(小島つとむ)

刀 劍 界

も聞かれ
かとの声
はいかが
開催して
下で共同
じ条件の
近年、同
してきた
展を開催
作刀公募
き独自の
旨に基づ
ぞれの趣
体がそれ
て、各団
じめとし
「を」を
技術発表
の「作刀
る日刀保
年に始ま
和二十九
では、昭
た。これ
発表され
が同時に
その詳細
団体の詳
の度、各
なり、こ
る運びと
で開催す
会を共同
代刀展覧
観する現
作品を展
受賞者の
頭彰し、

（公財）日本美術刀剣保存協会、
（公財）日本刀文化振興協会、全
日本刀匠会の三団体は、平成年間
に優れた作品を製作し、刀剣界に
大きな貢献を果たしてきた刀匠を
頭彰し、
受賞者の
作品を展
観する現
代刀展覧
会を共同
で開催す
る運びと
なり、こ
の度、各
団体の詳
その詳細
が同時に
発表され
た。

（公財）日本美術刀剣保存協会、
（公財）日本刀文化振興協会、全
日本刀匠会の三団体は、平成年間
に優れた作品を製作し、刀剣界に
大きな貢献を果たしてきた刀匠を
頭彰し、
受賞者の
作品を展
観する現
代刀展覧
会を共同
で開催す
る運びと
なり、こ
の度、各
団体の詳
その詳細
が同時に
発表され
た。

（公財）日本美術刀剣保存協会、
（公財）日本刀文化振興協会、全
日本刀匠会の三団体は、平成年間
に優れた作品を製作し、刀剣界に
大きな貢献を果たしてきた刀匠を
頭彰し、
受賞者の
作品を展
観する現
代刀展覧
会を共同
で開催す
る運びと
なり、こ
の度、各
団体の詳
その詳細
が同時に
発表され
た。

「平成の名刀・名工展」開催決まる 三団体共催で初の顕彰・展覧会

だが、「刀剣」と和鉄文化を保存振
興する議員連盟、や宮田亮平文化
庁長官らの後押しもあって諸条件
が整い、今回の「平成の名刀・名
工展」の実現となった。（伊波賢一）

平成の名刀・名工展 開催要項

- 趣旨**
この展覧会は、平成元年～30年の間に優れた作品を製作し、刀剣界に大きな貢献を残した者を顕彰し、平成の名刀・名工展として開催するものである。
刀剣製作は戦後、時代環境の変化により一時はその行先を見失いかけたが、人々は武器ではなく美術刀剣という在り方にその未来を見出した。日本刀製作技術は千年余の歴史があり、工芸史上重要な地位を占めるものである。そしてこの現代において、長年の伝統を継承しつつ古の模倣や従来の踏襲に終わらない、伝統の把握と一層の技術錬磨の上に、新しい時代とともにある日本刀の姿を築き上げることが、刀剣製作者の責務であると我々は認識する所である。
本展覧会は、広く人々の批評と御清覧を仰ぎ、美術刀剣ならびに我が国工芸の健全な発展に寄与することを願うものである。
- 主催・共催・後援/協力 会期 会場**

開催地	主催	共催	後援/協力	会期	会場
岡山県	(公財) 日本美術刀剣保存協会 (公財) 日本刀文化振興協会 全日本刀匠会	林原美術館 刀剣博物館 坂城町鉄の展示館	文化庁協力 ※細目については実行委員会 会で決定	平成31年5月18 日～7月7日	林原美術館
東京都	(公財) 日本美術刀剣保存協会 (公財) 日本刀文化振興協会 全日本刀匠会	刀剣博物館 坂城町鉄の展示館 林原美術館	文化庁協力 ※細目については実行委員会 会で決定	平成31年8月24 日～10月6日	刀剣博物館
長野県	(公財) 日本美術刀剣保存協会 (公財) 日本刀文化振興協会 全日本刀匠会	坂城町鉄の展示館 林原美術館 刀剣博物館	文化庁協力 ※細目については実行委員会 会で決定	平成31年11月9 日～平成32年2 月2日	坂城町鉄の展示館
- 応募申込**
・応募申し込みは、下記4. 応募条件を具備した者の自薦とする。他者よりの推薦は受け付けない。
・応募申し込みは、所定の応募用紙に記入すること。
・応募申し込み書類は郵送にて、運営委員会に1月21日(月)までに必着の事。
- 応募条件**
・美術刀剣類等製作承認を受けた者であること。
・現在活動中の者であること。
- 審査料**
審査料は10,000円とする。審査料の納入方法は運営委員会で決定する。
- 賞の種類**
審査会により決定された作家に対し、下記の通り賞を贈る。
◎平成の名刀・名工大賞 1名
平成の名刀・名工選受賞者の内より作品と製作活動、受賞歴、刀剣界に対する貢献(伝承者養成、普及教育等)、全ての要素を総合的に検討して最も高い評価を受けた者。
◎平成の名刀・名工準大賞 2名(同上評価順位上位順)
◎特別奨励賞 1名(上記にて55歳以下の者の内、最も高い評価を受けた者)
◎奨励賞 3名(上記にて55歳以下の者の内、評価順位上位順)
◎平成の名刀・名工選(入選・35人程度)
- 審査委員会**
前条の規定する賞の受賞者を審査決定するために、審査委員会を置く。
審査員の互選により、審査委員長1名及び審査委員長の指名により審査副委員長1名を置く。
- 審査会**
応募用紙記入内容による審査の上、各賞を決定する。
- 審査委員**
審査委員長は、決定次第発表する。発表時期は運営委員会で決定する。
- 10. 陳列作品**
受賞者の作品原則一人一口。審査委員会の推薦する物故刀匠の作品。実行委員会の推薦する参考品。
- 11. 審査発表**
審査日時・発表については運営委員会で決定する。
なお、個別の問い合わせについては一切応じない。
- 12. 付帯行事**
(1)図録の発行 (2)陳列品の解説 (3)ホームページへの掲載 (4)特別展示 (5)その他適当な行事
- 13. 作品の搬出**
日時・場所については実行委員会で決定する。
- 14. 異議の申立**
受賞、陳列その他について、異議を申し立てることは出来ない。
- 15. 作品・個人情報について**
出展の際に記載された情報は、報道機関への入選・受賞発表、平成の名刀・名工展関係の案内等に限り使用される。
- 16. その他**
同展の開催について必要な事項は、平成の名刀・名工展規程に依り各委員会が定める。

平成の名刀・名工展運営委員会
運営委員長 渡邊妙子
住所 700-0904 岡山県岡山市北区柳町2-1-1
事務局: 全日本刀匠会事務局内 担当: 坪内
TEL: 086-227-5721 FAX: 086-803-7106
アドレス: info@tousyokai.jp



バーチャル刀剣博物館「刀剣ワールド」
東建コーポレーション株式会社
(左石田鑑穂社長、本社内名古屋市中
区)は、刀剣の総合情報ウェブサイト、
「刀剣ワールド」(http://www.touken-
world.jp)を平成三十年十一月一
日(木)より公開しました。

「刀剣ワールド」は、日本の伝
統文化の継承・推進を目的として、
美術的に価値の高い日本刀や甲冑
に関する知識や雑学、ゲーム、キ
ャーパンなどを提供するウェブ
サイトで、日本刀や甲冑の情報を
網羅し、読むだけでなく、写真や
イラストさらに動画にて紹介する
ことで、初心者の方でも楽しく学
べる内容となっております。

当社は「建物・土地・人の調和
をめざす東建グループ」という企
業コンセプトの下、事業活動にと
どまらず社会貢献に向けたさまざ
まな活動に取り組んでいます。

日本文化の振興・発展に寄与す
るため、日本の文化財である刀剣
や甲冑などに関するさまざまな切
り口で研究活動を進め、情報発信
や保存活動などを行っています。

今回公開したバーチャル刀剣博

改正古物営業法四つのポイント 営業所が「一カ所」だけでなくも届出義務あり

昨年四月十七日に古物営業法が
改正され、四月二十五日に公布さ
れました。全国共通の許可は、公
布の日から二年以内(二〇二〇年
四月まで)に施行されます。

今回の古物営業法の改正で、事
業者は「主たる営業所」を定める
届け出をしなければなりません
(二〇一八年十月二十四日から施
行までの間)。営業所が一つしか
ない事業者でも届け出なくてはな
りません。届け出をしなければ、
施行日以後は無許可営業となつて
しまいます。

今回の古物営業法の改正では、
四つの変更点があります。

- ①都道府県ごとの許可から全国共
通の許可へ**
改正法では、主たる営業所のある
都道府県の許可を受ければ、他
都道府県に営業所を置く時は届け
出のみで足りることになります。
- ②例)例えは、埼玉県に主たる
営業所を定めていれば、あらかじ
め届け出をするだけで四十七都道
府県どこでも営業所を開設できる
ようになります(以前は、複数の
都道府県に営業所を開設する場合**

は、都道府県ごとに古物営業許可
を受ける必要がありました)。

- ②仮店舗での営業ができるように
あらかじめ届け出をすれば、仮
設店舗で古物を受け取ることもで
き、日時・場所の届け出をすれば、
営業所やお客さまの住所以外の仮
設店舗で古物の受け取りができる
ようになります。**
- ③簡易取り消し制度の新設**
古物商や営業所の所在を確認で
きない時は、公告から三十日経過
で許可取り消しができる。住所・氏
名等の変更があった時や営業をや
めるときは、公安委員会窓口は所
轄警察署)に届け出をすることを忘
れないようにすることが大事です。
- ④欠格事由の追加**
暴力団員や窃盗罪で罰金刑を受
けた者を排除する許可の欠格事由
の追加。過去五年以内に窃盗罪で
懲役や罰金刑を受けた人が、欠格
事由に追加されました。

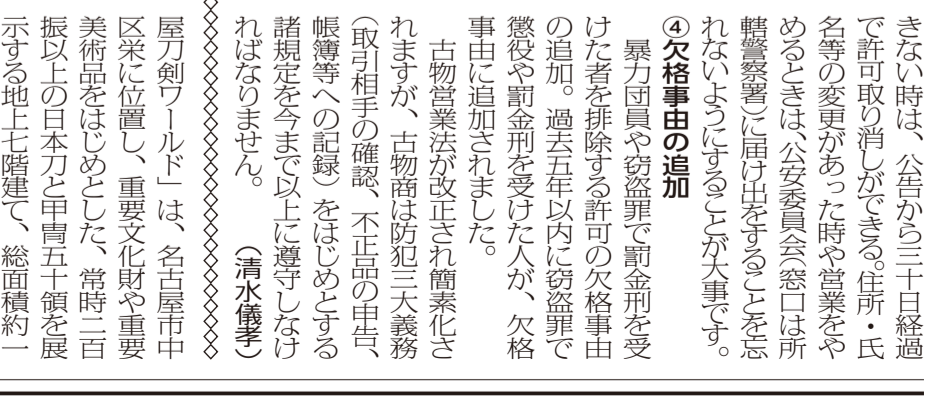
古物営業法が改正され簡素化さ
れますが、古物商は防犯三大義務
(取引相手の確認、不正品の申告、
帳簿等への記録)をはじめとする
諸規定を今まで以上に遵守しなけ
ればなりません。(清水儀孝)

「刀剣ワールド」は、「学び」
をコンセプトに、当社がこれまで
に収集・分析した知識や知見から、
日本伝統文化の歴史や豆知識、コ
ラムなど、数多くのコンテンツを
制作しました。このウェブサイト
の開設により、日本刀(刀剣)や
甲冑、歴史ファンの皆さまの「学
び」をサポートします。

内容は、「日本刀(刀剣)検索」
「日本刀(刀剣)の基礎知識」「歴
史の偉人と日本刀」など、数多く
のコンテンツを用意しております。
各時代を再現したキャラクターが
たくさん登場して解説するなど、
楽しみながら学べる構成で、刀剣
甲冑の情報は、日本一を誇りま
す。これからも順次、コンテンツ
を追加しながら、今後は多言語に
対応することで、世界一の日本刀
サイトを目標とし、研究活動と情
報発信を行ってまいります。

また、二〇二〇年六月には名古屋
屋刀剣博物館「名古屋刀剣ワ
ールド」(名古屋市中区)を開館いた
します。名古屋刀剣博物館「名古屋

博物館のコンセプトは、①リア
ル(実物展示アイテム)、②バー
チャル(ウェブサイト「刀剣ワ
ールド」)、③デジタルアトラクショ
ン(メディア体験)の三つのテー
マを複合させた「誰もが楽しめる
日本文化の出会いの場」として、
これまでにない体験型ミュージア
ムとして、多くの来場者さまに楽
しんでいただける博物館を現在建
設中です。



東建コーポレーション株式会社
名古屋市中区
刀剣ワールド

設立七十周年・たたら操業四十周年記念「第二回全国大会」を開催

公益財団法人日本美術刀剣保存協会

去る十一月二十四日・二十五日の二日間、公益財団法人日本美術刀剣保存協会(酒井忠久会長、以下「日刀保」)の協会設立七十周年・たたら操業四十周年記念「第二回全国大会」が東京・墨田区の第一ホテル両国にて開催されました。本紙特派員として大会の取材をしてきたので、報告します。

この日は昼より同ホテル五階にて受付を開始、午後四時まで五階の第一会場、二十五階の第二会場にて刀剣鑑賞会が行われました。各会場には、重要文化財・重要美術品の太刀・刀・短刀をはじめ、

数々の袴や刀装具が陳列されています。参加した会員はそれらを手にとって鑑賞するのに、順番を待って長い列ができるほどの盛況でした。一本入札鑑定も行われ、集った愛刀家連が目利きを競っていました。



お祝いのお言葉を述べられる
杉子女王殿下

大会と併せて、近くの刀剣博物館見学も配慮され、大会参加者は朝九時半から午後四時までの間に三階の展示室で作品を鑑賞することができました。また、館内の別会場では、吉原義人刀匠による講演会も開催されました。遠方から来られた方の多くは、新刀剣博物館オープン後、初めて来館される良い機会となったようです。

刀剣鑑賞会と講演会は午後四時に終了、休憩を挟み、午後五時から同ホテル五階「清澄の間」において記念式典と懇親会が開催されました。柴原勤専務理事が開会の辞を述べ、続いて酒井会長が主催者を代表して挨拶されました。来臨された杉子女王殿下からは、たたら操業四十周年と協会七十周年のお祝いのお言葉を賜りました。続いて来賓を代表し「刀剣・和



酒井会長の挨拶に耳を傾ける出席者

式典終了後、午後六時より同会場において懇親会が開催されました。福本富雄常務理事が開会を宣言した後、山本亨墨田区長の発声で乾杯。円卓に着席のスタイルで豪華なフランス料理とおいしいお酒が振る舞われました。

愛刀家・刀職者・日刀保都道府県支部役員ら、全国から馳せ参じた方々は三百名以上、私たち全国刀剣商業協同組合からも二十余名が参加し、刀剣界の将来の発展を願い、皆さんと親交を深めました。しばしの歓談の後、株式会社日立金属安来製作所・春和彦代表取

短刀 銘吉則
クラウドファンディングには人気のインターネットゲーム「刀剣乱舞」を開発した株式会社ロプラス(東京)が協力。描き下ろしイラストを提供するなどPRに役買い、目標の六倍近い二千九百三十五万円が集まった。超過分は、白鞘の製作や外装の修復などに充てるという。残りの六振も二〇年までに修復する。

公益財団法人日本刀文化振興協会(本阿彌光洲理事長)では、十二月より「新作日本刀証明証」の発行を始めました。これまで公益財団法人日本美術刀剣保存協会では現代刀作品の物故者を対象に鑑定書を発行されてきましたが、現在活躍中の現代刀作家作品に対する「鑑定書」または「証明証」はありませんでした。当協会としては、この現代刀作家作品に対し「新作日本刀証明証」として発行する運びとなりました。

古美術の世界では古来膨大な偽物が存在することは、いろいろな鑑定番組などで実証済みですが、日本刀の世界でも同様であることは皆さまもご認識の通りです。古くは本阿彌家の「折紙」が鑑定の基準となっておりましたが、これは主に將軍家や大名家同士の間で流通するときに必要だったもので、一般にはあまり関係のないものでした。戦後、大名家や名家から流出した古名刀を含めた日本刀は多くの一一般愛刀家の所有となり、高度成長に合わせて愛刀家の数も増加しました。戦後、財団法人となった日本美術刀剣保存協会が発行する「認定書」「鑑定書」は愛好家や一般の方にとりまして価値を高めるものでなくてはなりません。今年、は始まったばかりですが、五年、

十年、いや数十年経ち、この証明証が現代刀の貴重な資料となることでしょう。そのためには、刀剣商の皆さまや刀職者の皆さまのご理解とご協力を得ながら、現代刀を愛好される皆さまにとって信頼性と価値を高める基準となるよう今後「新作日本刀証明証」を活用していただきたいと思えます。
【具体的な証明証発行までのプロセス概要】
①現代作家の皆さまに当協会でご登録をいただき、その方のお刀に対し証明証を発行してまいります。「作家登録」していただくことにより、将来にわたってご自身の作品が当協会にて登録・蓄積されます。
※作家登録料：一万円(税別)。
②証明証発行を希望する方は、一度、当協会にお問い合わせください。毎月の受付日程・受付場所等をご案内します。その上で、お預かりした作品の各種測定を実施し、そのデータを基に当協会より「新作日本刀証明証」を発行します。
※証明証発行料：通常の形状に限り一振につき三万円(税別)。ただし長大な形状のものには別途追加料金が発生する場合があります。
③将来、照会が必要な場合もお問い合わせください。新規発行と同様の現物データを撮り、証明証に記載以外の詳細データをもつて確認の上、回答します。
※照会料：一振につき二万円(税別)。
【問い合わせ先】当協会事務局
TEL: 04-4-0044 東京都北区赤羽南二丁目七 鷹匠ハイスクリー一号
TEL: 03-5529-1444
E-mail: tbk@nbsk-jp.org

クラウドファンディングで刀剣修復 久能山東照宮でお披露目

徳川家康公を祀る久能山東照宮で昨年九月に見つかった刀剣八振のうち四振の修復が完了し、十二月一日から一月末まで同所の東照宮博物館で披露されている。

修復費は、インターネットで資金を募るクラウドファンディングで賄われた。刀剣は宝物が納められた神庫の

調査で発見されたが、錆びて激しく劣化していた。以前から存在が確認されていた二振と合わせた十振のうち、修復を終えたのは次の四振。研磨には当組合賛助会員の研師・吉田秀雄さんが当たった。

刀 銘横山上野大塚
脇指 銘備州長船久光
脇指 銘西陣住埋忠

久能山東照宮博物館 TEL: 042-227-8011 静岡市駿河区根古屋三九

日本刀の 名品・名刀を販売
店主 小暮 昇一
TEL: 0529-113115
滋賀県愛知郡愛荘町香掛80-11
TEL: 0749-14212736
携帯: 090-1316217641
http://www.goushuny-anihontou.com



新作日本刀証明書 (サンプル)

「新作日本刀証明証」の発行に当たって 公益財団法人日本刀文化振興協会

刀 剣 界

旅のつれづれに 5

南部一之宮・櫛引八幡宮へ 国宝に会いに行く

八戸(青森県)に出張するので、この際、櫛引八幡宮にぜひ立ち寄りたいと思いました。

何しろ櫛引八幡宮には国宝の鎧二点が常時展示されているとのことなので、どうしても拝見したく、本八戸駅からタクシーで二千数百円を支払って到着しました。

八戸市には、東北本線・東北新幹線が通る八戸駅がありますが、そこから八戸線で二つ目の本八戸駅の方が八戸市庁舎や旧南部子爵邸表門などの史跡や、繁華街があり、とても栄えています。

まず、櫛引八幡宮の歴史を知っておこうと思い、公式なガイドを買いました。それによると、後三年の役の終わった寛治三年(一〇八七)、源義家(新羅三郎)が甲斐国主となり、甲斐源氏の祖となった。その中心は武田氏であるが、支族の加賀美次郎遠光公の三男光行公は石橋山の戦の功により南部

の地を賜り、南部氏の祖になった。つまり南部氏というのは、甲斐武田の分家だったのです。

「そんなことも知らなかったのか」と言われそうですが、本当に知りませんでした。

さて、南部一之宮・櫛引八幡宮に参拝した後、宝物殿に入る。正面に赤系威鎧と白系威威取鎧の二領が飾られている。実は、これはすごいことなのだ。国宝の鎧は全部で十六領しかなく、そのすべてが八幡宮・神社・大社に納められている。

具体的に言うと、櫛引八幡宮に二領、武蔵御嶽神社(東京都)に一領、菅田天神社(山梨県)に一領、春日大社(奈良県)に四領、厳島神社(広島県)に四領、大山祇神社(愛媛県)に四領(すべからず南部一之宮といえ、東北に国宝が残っているのはすごいことです。赤系威鎧は大鎧と兜に菊一文字の飾金物があり、「菊一文字の鎧兜」として有名だそうです。春日大社の赤系威鎧(竹に雀・虎金物付き)と並んで、装飾金物の豪華な点において現存甲冑の双璧と称されています。アメリカの大富豪から「五十億円で売ってほしい」という申し出もあったそうです。もう一点の国宝は、白系威威



国宝の赤系威鎧(左)と白系威威取鎧(いずれの写真も櫛引八幡宮提供)

取鎧です。この鎧は、南北朝時代の南朝の後村上天皇から南部信光公が拝領したものと伝えられています。威威取とはこの鎧にある模様のことです。この威威取の様式で兜・鎧・大袖などが全て残っているのは、唯一この甲冑だけだそうです。ほかに重要文化財の紫系威威取鎧・浅黄威鎧、白系威威取赤丸、兜(浅草威威取大袖二枚付き)の三点も一緒に飾ってあります。

詳細については小生などより途方もなく詳しい細取譲一氏に聞いていたたくとして、小生は、この間の丸岡城のような情報が何かあったらと思う、宝物殿のベテラン女性スタッフに聞いてみると……ありました、ありましたよ。

宝物殿にある国宝・重要文化財の五点は戦前、盗難に遭ったという(当時は旧国宝)。盗んだ泥棒クン、東京方面で売りつけようとしたが、「この鎧は櫛引八幡宮のものだろう」と言われ、怖くなって売るのを諦め、鎧を置いて逃げたので、不幸中の幸い、鎧は八幡宮に戻ったそうだ。

これだけの大事件を公式ガイドブック的な本に載せていないわけはあるまいと読んでいたら、ありました。巻末の櫛引八幡宮年表の中に、小さな字で「昭和十五年、国宝甲冑五盗難。金具の一部を除いて発見された」と。確かに、旧国宝の時代は五盗難に国宝扱いになるわけだし、まさにその通りになっているわけでした。

八戸は、青森県といっても太平洋に面しており、雪もほとんど降らず、食べ物もおいしいので、ぜひ行ってみたいですね。国宝も常時公開していますから、

■南部一之宮・櫛引八幡宮 二〇〇三-〇一-〇五 青森県八戸市八幡字八幡一丁目二〇一七八-二七三〇五三 <http://www.kushihikihachimangu.com/>

イベント・レポート

靖国神社御創立百五十年に向けて奉納鞆祭と公開作刀鍛錬を挙

前夜に雨が降りましたが、鞆祭当日の靖国神社は朝から素晴らしい天気でした。

平成三十年十一月十一日、参列者の皆さまと御本殿に昇殿参拝の後、火床を設けた御神門北側で鞆祭の神事となりました。

祭始めの奏、降神の儀、献饌と進み、いよいよ「火熾しの儀」。古式に則り、鉄の棒を手鎚で叩いて熱くして付け木に点火し、その火で火床の炭を熾すのですが、この日はなかなか火が付きません

でした。

実は軟らかい生鉄でなくてはならない火熾し棒が、鋼だったため硬い上に、叩いているうちに先端が割れて温度が上がらなかったのです。それでも三度目の正直と必死で叩き、付け木に火がついたときはホッとしました。参列者の皆さまも観覧していた方たちもよほどハラハラしていたのか、拍手が起きたほどでした。

火床に玉鋼を入れ、それが程よく赤まると続いて「鍛錬の儀」。玉鋼を箸で掴み鉄床の上に置き、まずは靖国神社・坂権宮司に大鎚で叩いていただきました。その後は、漫画家であり公益財団法人日本刀文化振興協会評議員・鎌田貴三子氏、公益財団法人日本美術刀剣保存協会・黒滝哲也氏、研師・藤代龍哉氏、全国刀剣商業協同組合理事長・清水儀孝氏、日本美術刀剣保存協会東京都支部長・園平治氏、公益財団法人日本刀文化振興協会専務理事・宮入小左衛門行平氏、全日本刀匠会会長・



来賓を迎えて挙行された奉納鞆祭

く赤まると続いて「鍛錬の儀」。玉鋼を箸で掴み鉄床の上に置き、まずは靖国神社・坂権宮司に大鎚で叩いていただきました。その後は、漫画家であり公益財団法人日本刀文化振興協会評議員・鎌田貴三子氏、公益財団法人日本美術刀剣保存協会・黒滝哲也氏、研師・藤代龍哉氏、全国刀剣商業協同組合理事長・清水儀孝氏、日本美術刀剣保存協会東京都支部長・園平治氏、公益財団法人日本刀文化振興協会専務理事・宮入小左衛門行平氏、全日本刀匠会会長・

三上高慶氏と刀剣界の各団体代表の方に鎚打ちをしていただいたのは光栄なことでした。

鍛錬の儀は下島刀匠・石田刀匠が二丁掛の先手で力強く玉鋼を叩き、焼き入れをして締めくくりました。ここでも皆さまから大きな拍手を頂きました。圧した鋼は再び三方に載せて祭壇へと上げられ、昇神で御神事は終了となりました。

午後には、同じ場所で開催作刀鍛錬です。鞆祭で撤された玉鋼を、トン、テン、カンと先手を使う古式鍛錬で鍛え、それを一般に公開し観覧していただきました。

午前中の御神事には厳かな緊張感がありましたが、午後は少しリラックスして、刀鍛冶が順にマイクで仕事の解説をしました。観覧に訪れる皆さまにも刀鍛冶の仕事に身近に感じていただきたかったのです。

二回の折り返し鍛錬の後、観覧している方たちに「大鎚で実際に赤めた鉄を叩いてみたい方はいらっしゃいますか?」と声をかけると、うれしいことに、十数名の女性がすぐに手を挙げてくださいます。



女性も参加した公開鍛錬(撮影/トム岸田)

この日、境内で鍛錬した鋼を私がさらに鍛えて短刀とし、来年迎える御創立百五十年には奉納させていただきます。

靖国神社御創立百五十年という大きな節目に、このような大役を任せていただきましたことを誇りに思い、また、ご尽力いただいた靖国神社の皆さま、ご協力いただいた関係者の皆さまには全日本刀匠会関東支部一同、心より感謝申し上げます。

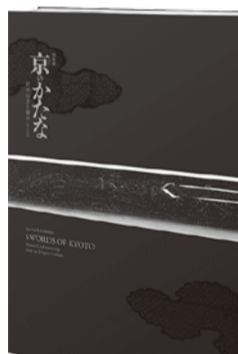
奉仕刀匠は石田國壽・小澤茂範・下島房宙・田中貞徳・森光廣・山下浩・川崎晶平の七名(五十音順)。(全日本刀匠会関東地方支部支部長・川崎晶平)

京都国立博物館「京のかたな一匠のわざ」雅のJUNKI

みやこの名刀を心ゆくまで味わう

NBTJK(日本美術刀剣保存協会)米国支部のメンバーとともに京都国立博物館に行ってきた。「京のかたな一匠のわざと雅の

物館の歴史上初および最大の日本刀展覧会となった。



図録表紙

刀剣展は非常に人気が高く、入場の列は一日三時間待ち。会場内では、最も有名な二振りの刀、国末の「三日月宗近」と「へし切長谷部」の周りに人だかりができていた。来場者

がとても多く、真剣に刀について学ぼうとする人々にとっては、残念ながらそれが困難な状況だった。しかし、京都国立博物館および冥賀吉也・冥賀亮典両氏のご配慮により、米国支部のメンバーは数時間後の十八時三十分〜二十時三十分の二時間にわたり貸し切りでの特別鑑賞会を設けていただき、展示された見事な刀を特別に観覧し真剣に学ぶ機会を得られた。刀の刃文と地鉄についてゆっくりと学ぶことができたのは、本当にありがたかった。

来場者の多くは京都平安時代の優雅さ、特に三日月宗近を高く評価していたが、南北朝時代の歴史と力強いへし切長谷部の形状にも敬意を持ったようだ。私個人としては、うれしいことに国宝・会津新藤五を勉強するチャンスに恵まれた。最後に、これらすべての出来事が深く心に残り、最高級の名刀を目にする生涯一度の機会だったかもしれないことは、特筆に値する。冥賀家の皆さまの温かいおもてなしと尽力に、心からお礼を申し上げます。(マイク・ヤマサキ)

『刀剣界』は隔月で発行しています。現在、キャンペーン中につき、ご希望の方に3号分を無料でお送りしています。組合員・賛助会員以外の方で購読を希望される方は、お名前・送付先・電話・メールアドレス(あれば)を書面でお知らせください。また、お知り合いで刀剣に興味のある方がいましたら、教えてあげてください。(事務局)

第七十二回清磨会が宗福寺で開かれる

冬らしく凜と空気が引き締まった十一月十四日は、幕末の名士で「四谷正宗」とうたわれた山浦清磨の命日に当たり、今年も清磨会(会主・柴田光隆氏)が四谷の宗福寺において開催されました。歴史ある清磨会は今回で七十一回を数え、鑑賞会場には山浦清磨が四振、山浦一門の真雄が一振、正雄が二振、清人が三振、ほかには清磨が長州に滞在していたころに師事した堀内寛平の作品などが並びました。



第71回清磨会に参加された皆さん

清磨の高弟栗原信秀と会津十一代兼定の研究では第一人者でいらっしゃる新潟県三条市在住の外山登さんに、本年もお越し願いました。昨年の栗原信秀に引き続き、今年はお蔵の会津十一代和泉守兼定の作品を十振も持参いただき、「刀剣美術」にも発表された研究を中心にご講義をしていただきました。

また、今回は十一代兼定を佩刀として風雲急を告げる幕末の京において活躍した新撰組の副長土方歳三のご子孫であり、東京・日野市の生家で土方歳三資料館を運営されている方三郎さんにもお越し願ひ、ご挨拶をいただきました。毎回、名品が並ぶ清磨会において、十一代兼定の作品がこれほど多く陳列されていることは初めてのことであり、あらためて十一代兼定の技量の高さを再確認することができました。

外山さんご講義では、十一代兼定の作風は初めは二尺三寸ぐらいの寛文新刀を思わせる尋常な刀姿であったが、文久三年(一八六三)に京に上ったからは長寸で切先の延びた豪壮な作品も見られるようになり、おそらく兼定も京において清磨らの豪壮な刀を見る機会を得て触発され、姿や作風にも反映しているのではないかと、やはり十一代兼定の名が有名になったことには土方歳三の佩刀であったことが大きく影響している、などのお話がありました。

直接的な接点はないものの、新々刀の名士の作品には沸が強くつき、匂口が明るく冴え、刃中の動きも豊富であるなど、いろいろと共通点も多くあるように感じられました。(賞賀亮典)

「筑前左文字の名刀展」はふくやま美術館から刀剣博物館へ

十一月十一日から十二月九日まで広島県のふくやま美術館にて開催された特別展「筑前左文字の名刀」を一足先に内覧させていたいた。鎌倉時代末期から南北朝時代初期にかけて筑前国(福岡県)博多を拠点に作刀した左文字を中心として、筑前鍛冶の先達である良西・入西・西蓮・国吉・実阿をはじめ、弟子の安吉・行弘・吉貞・国弘らの名品の数々が一堂に並ぶ展示はまさに圧巻であった。

注目すべきは、やはり左文字の代表作である「国宝 太刀 銘筑州住左(江雪左文字) および「国宝 短刀 銘左ノ筑州住」(太閤左文字)。その健全さと美しさには唸るほかなかったが、他にも今まで世に存在するのがそれ一点のみと信じられてきた左文字在銘の太刀、ならびに安芸国入西の年紀作見られた二点目の作品が展示されていることも刀剣愛好家としては見逃せない注目作である。



ふくやま美術館の「筑前左文字の名刀展」会場風景

前者は「太刀 銘筑州(以下切)」、後者は「太刀 銘安芸国入西永仁三年六月日」で、共に通期で展示された。

併せて、左文字の生み出した清廉な美しさを引き継いだ門下の安吉・行弘・吉貞・国弘らの作品群も実に素晴らしい。展覧会を鑑賞後には清々しい気持ちで帰路に就くことができた。

千葉県立中央博物館大多喜城分館「房総ゆかりの甲冑」マニアをもうならせる展示の数々

大多喜城分館の二十七年年度の企画展「甲冑とその時代」はこの館のレコードを打ち立てるような入場者数を記録したが、今回の企画も順調に来館者を集めている。

また、図録の表紙に起用された簡素な仙台藩の雪ノ下胸具足と見まごう五枚胸具足は、佐倉藩堀田家に代々藩医として仕えた津田家の所蔵品で、四段の長側、三段の前立拳が見て取れ、一括で作られる雪ノ下胸との違いが確認できる。

京・両国の刀剣博物館に移し、一月十二日から二月十一日まで開催される「(催事情報)参照」。ふくやま美術館の担当学芸員曰く、「左文字が大成した後からまた始まる各作品の変化、ならびに左文字と、それを引き継ぎ、かつさらに華麗にした弟子たちの作品群にもぜひ注目」とのことであるので、足を運んで美見していただきたい。(飯田慶雄)

また、図録の表紙に起用された簡素な仙台藩の雪ノ下胸具足と見まごう五枚胸具足は、佐倉藩堀田家に代々藩医として仕えた津田家の所蔵品で、四段の長側、三段の前立拳が見て取れ、一括で作られる雪ノ下胸との違いが確認できる。近代になり同家からは、彫刻家の津田信夫が出てくる。冬に氷柱が付く日比谷公園の鶴の噴水でおなじみではあるが、津田信夫に関しては今さら多くを語る必要はない。

共に見られていた別の色々威大袖一又は冠板、伏せ組間に五つ星を施したさらに時代の上がるも

この日は鎌倉商工会議所のホールを会場に「鎌倉国宝館九十年の歩みとその未来」が開かれたが、特別展では日中戦争の開始から太平洋戦争の終結までの間、同館が

交換会紹介 新栄会大会報告

十二月六日、大阪の箕面観光ホテル・大江温泉物語・桂別邸において新栄会の大会が開催されました。大会は吉井唯夫代表の挨拶に始



新栄会大会の交換会風景

まり、入札・セリとも関西の魅力的な品物がたくさん出て、大いに盛り上がりました。新栄会の歴史は長く、五十年近くになります。全国でも数少ない歴史の古い会です。阪急百貨店で店を構えていた中宮敬堂さんや、今の代表の先代の吉井哲夫さんらが中心となって始めた共同会です。昔から関西の生荷が出るので、東京はもちろん、全国から業者が集まってくる市場なのです。このような伝統のある会が、これからも関西を引っ張っていく会であっていったらと思いました。大会の後は宴会もセッティングされており、おいしい食事にカラオケと大いに盛り上がりました。新栄会は盛会のうちに幕を下ろしました。(土肥富康)

の貴重な文化財を亡失したが、こうした不時の災害から由緒ある文化遺産を保護し、併せて鎌倉を訪れる方々がこれらの文化財を容易に拝観、見学できるように展示する施設として企画された。その中心を担ったのは、それまでも鎌倉の史跡や社寺などの保護に努めていた鎌倉同人会である。

戦時下の文化財の措置については、わずかに皇室博物館(現東京国立博物館)の文化財疎開が知られる程度で、研究もほとんど行われていない。今回の展覧と当館学芸員・金子智哉氏の論文で、国とのやりとりも含め、状況が明らかになったことは喜ばしい。

開館は昭和三年(一九二九)四月。九十年の歴史は国公立の博物館中でも、屈指である。くしくも翌四年三月には国宝保存法が制定されている。

ちなみに「鶴岡八幡宮年表」昭和十九年四月二十日の項に「国宝太刀(銘国吉・正恒・長光)を東京都西多摩郡大久野村へ疎開させる」とあるが、疎開先は「羽生事件」についての拙稿(本紙第34・35号)で取り上げた当地・上羽生家の三階蔵であった可能性が高い。鎌倉国宝館は戦時下でも活動を継続し、終戦後はわずか二月月の閉館の後、再開したという。博物館の意義とは何か、あらためて考えさせられる一日であった。

「鎌倉国宝館九三七〜九四五」戦時下の博物館と守り抜かれた名宝 十一月二十三日、開館九十年を記念特別展「鎌倉国宝館一九三七〜一九四五」戦時下の博物館と守り抜かれた名宝一に行ってきた。鎌倉国宝館は鶴岡八幡宮境内に

あり、鎌倉市が運営する。設立は大正十二年(一九二三)の関東大地震を契機としている。震源に近かった鎌倉では多くの歴史ある社寺が倒壊し、仏像など



めて考えさせられる一日であった。(土子民夫)

刀剣業界の情報紙である『刀剣界』では、記事を募集しています。ニュースや催事情報、イベント・レポート、ブック・レビュー、随筆・意見・感想など、何でも結構です。写真も添えてください。組合員・賛助会員以外の方も歓迎です。ただし、採否は編集委員会に諮り、紙面の関係で編集させていただくことがあります。

古河歴史博物館

〒306-0033 茨城県古河市中央町3-10-56 ☎0280-22-5211
https://www.city.ibaraki-koga.lg.jp/lifetop/kogameguri/art/3/3874.html

備前刀の伝統—鎌倉時代から現代まで

備前国は中国山脈から最も良質な砂鉄を豊富に産出したことから、平安時代後期～鎌倉時代に古備前と称する一群の刀工が活躍し、以後この地の福岡・長船・吉岡・島田・片山・大宮・吉井・宇甘などに名工が輩出して繁栄を極めました。

今回の展示は、鎌倉時代から室町時代までの備前刀の名品と、江戸時代の名工の備前伝の作品、そして情熱あふれる現代刀匠の備前伝の力作まで、一つの流れとしてその伝統を鑑賞いただけるよう企画しました。

会期：3月16日(土)～5月6日(月) 4月25・26日休館



佐野美術館

〒411-0838 静岡県三島市中田町1-43 ☎055-975-7278
http://www.sanobi.or.jp/

REBORN 蘇る名刀

日本刀の輝きは、時代を超えて人々を魅了してきました。しかし長い歴史の中で、大坂城落城、明暦の大火、関東大震災など、戦乱や天災に巻き込まれ、焼けたたれ、鉄の塊となってしまった名刀も多くありました。

名刀と呼ばれる刀剣は、ある時は特別な霊力を秘める宝物であり、ある時は権力の象徴でした。それゆえ日本人は、焼き直しという手法で傷ついた刀剣に再び命を吹き込み、今日まで伝えてきました。現在では文化財保護の観点も視野に入れ、この試みが続けられています。

本展では約50件の刀剣をご紹介します。さまざまな困難をくぐり抜け、今また美しい光を取り戻した刀の物語です。

会期：1月7日(月)～2月24日(日) 会期中一部展示替えあり



刀剣博物館

〒130-0015 東京都墨田区横綱1-12-9 ☎03-6284-1000
https://www.touken.or.jp/museum/

筑前左文字の名刀

鎌倉時代末期から南北朝時代初期にかけて筑前国(福岡県)博多を拠点に作刀した左文字は、左衛門三郎の略と伝わる「左」の一字を銘に切ることから、古来その名で呼ばれています。従来の九州物一般の伝統であった、板目の流れた鍛え肌と匂口の沈んだ直刃調の刃文を焼くという地味な作風から脱却し、地刃ともに明るく冴えて垢抜けた作風へと劇的な転換を遂げました。その作風は、安吉ら多くの優れた門弟たちによって継承され、筑前鍛冶の黄金時代が築かれたのです。

本展覧会では、左文字の代表作である《太刀 銘 筑州住左(江雪左文字)》および《短刀 銘 左/筑州住(太閤左文字)》をはじめとする初期から円熟期にわたる太刀・刀・短刀の名品を一堂に展覧します。併せて左文字の先達である良西・入西・西蓮国吉・実阿の作品や、門下の安吉・行弘・国弘・吉貞などの作も加えたおよそ50口余りにより、鎌倉時代から南北朝時代における筑前鍛冶の伝統と革新の様相に迫ります。

なお、声優の浅利遼太さんが、特別展「筑前左文字の名刀」を臨場感あふれるナレーションでご案内します(スマートフォンアプリ「Pokke」上で購入・視聴できます。約40分、600円)。

会期：1月12日(土)～2月11日(月・祝)



島田美術館

〒860-0073 熊本市西区島崎4-5-28 ☎096-352-4597
http://www.shimada-museum.net/index.php

高山一之の世界展 ～拵・刀装具の美～

先ごろ選定保存技術保持者に認定された刀装師・高山一之氏の作品展を開催する。4月6日(土)には本人のギャラリートークがあるほか、3月9日(土)には研師・正海裕人氏による「刀剣教室～御刀手入れ講習～」が行われる。なお、DVD、Blu-ray(ブルーレイ)も発売中。ともに¥8,000+税(送料別)。

会期：2月13日(水)～4月14日(日) 火曜休館



NEWS & TOPICS

京都移転を見据え文化庁が大幅な組織改編

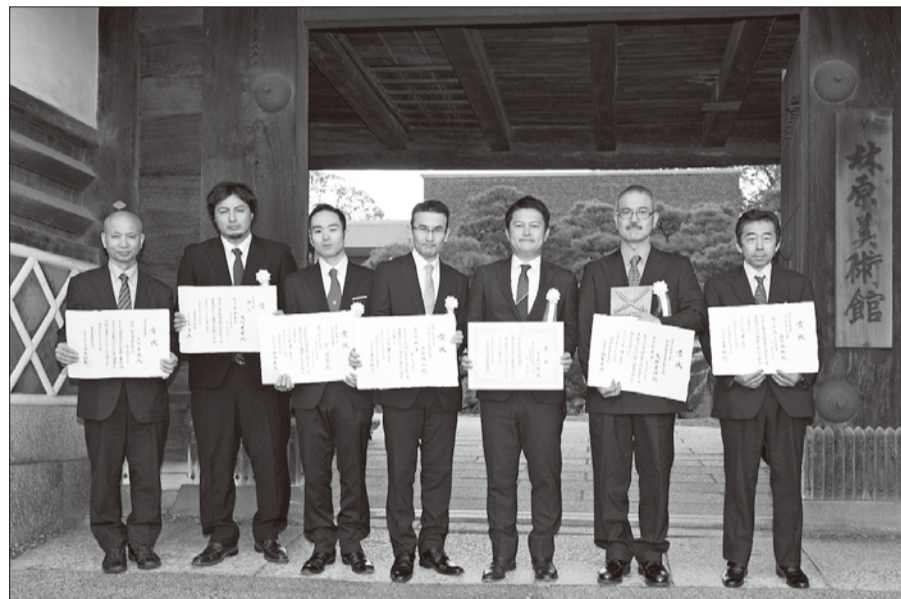
創設50周年の節目に当たる昨年10月1日、文化庁は、文化芸術基本法等を踏まえ、大幅な組織改編を行った。具体的には、2021年度中の京都移転を見据え、次長を2人配置するとともに、従来の文化庁や文化財部を廃止し、文化による地方創生や文化財の活用等、新たな政策ニーズへの対応などを進めるための機能強化を図った。

2017年4月に設置した地域文化創生本部は、本格移転の準備を進めつつ、こうした状況に対応した事務・事業を先行的に実施するものであるという。

新たな組織と人事は右表の通り。美術学芸課長や文部科学省広報課長、文化財部長などを歴任した山崎秀保氏は国立文化財機構へ出向した。

今後、刀剣行政や無形文化財の調査・指定などは文化財第一課が所管する。

長官	宮田 亮平
次長	中岡 司
次長	村田 善則
審議官	内藤 敏也
審議官	杉浦 久弘
文化財鑑査官	豊城 浩行
政策課長	高橋 宏治
企画調整課長	榎本 剛
文化経済・国際課長	清水 幹治
国語課長	高橋 憲一郎
著作権課長	水田 功
文化資源活用課長	小林 万里子
文化財第一課長	平山 直子
文化財第二課長	大野 彰子
宗務課長	南 新平
参事官(芸術文化担当)	坪田 知広
参事官(文化創造担当)	松坂 浩史



第13回「お守り刀展覧会」の授賞式は11月24日、展示会場の林原美術館において開催された(審査結果は既報)。未発表だった駐日ポーランド共和国大使賞は久保善博刀匠が受賞した。写真は左から三上孝徳・木村光宏・宗信安・上山陽三・月山一郎・久保善博・山下浩郎の各刀匠。(撮影/トム岸田)



12月9日、「小笠原信夫先生を偲ぶ会」が東京・上野の精養軒で開催され、100人余りの方々が参加した。小笠原氏は東京国立博物館に勤務し、工芸課長などを歴任した。同館名誉会員。10月27日逝去、79歳。(撮影/トム岸田)

〒113-0012 東京都荒川区西日暮里1-10-12
aobak@pb8.so-net.ne.jp

高橋一

アオバ企画(株)

刀剣・小道具・甲冑武具

飯田高遠堂

代表取締役 飯田慶雄

〒161-0033 東京都新宿区下落合3-17-33
TEL 03-3951-3312
FAX 03-3951-3615

http://www.iidakoendo.com

(株)美術刀剣松本

松本 富夫 義行

〒278-0043 千葉県野田市清水199-1
TEL 04-7122-1122
FAX 04-7122-1950

www.touken-matsumoto.jp

美術日本刀・鐔・小道具・甲冑

日本の伝統文化を彩る
JAPAN SWORD CO., LTD.

(株)日本刀剣

伊波賢一 Ken-ichi Inami

〒105-0001 東京都港区虎ノ門3-8-1
TEL 03-3434-4321
FAX 03-3434-4324

銀座日本刀ミュージアム

泰文堂

〒104-0061 東京都中央区銀座6-7-16
岩月ビル2階

(株)銀座泰文堂 代表 川島貴敏

TEL 03-3289-1366
FAX 03-3289-1367

http://www.taibundo.com

催事情報

富山市郷土博物館

〒930-0081 富山市本丸1-62 ☎076-432-7911
http://www.city.toyama.toyama.jp/etc/muse/

観て知ろう! 武具にまつわるエトセトラ

普段、私たちが何げなく使っている言葉には、武具にまつわるものがたくさんあります。例えば、「火蓋を切る」は鉄砲、「せっぽつまる」や「抜き差しならない」「反りが合わない」などは刀から生まれたものです。また、「太刀打ちできない」は文字通り太刀、「横槍を入れる」は槍に関する言葉です。武具が日常に根差したアイテムだったからこそ、さまざまなことわざや慣用句などが生み出されていったのでしょう。

本展では、さまざまな言葉のルーツとしての武具に注目し、当館の所蔵品を通して、ゆかりのことわざや慣用句などを紹介します。実物を間近で見ながら、言葉の世界のエトセトラを知ること、武具そのものへの興味関心を持っていただく機会となれば幸いです。

会期：11月17日(土)～1月27日(日)



森記念秋水美術館

〒930-0066 富山市千石町1-3-6 ☎076-425-5700
http://www.mori-shusui-museum.jp/

備前刀 一用と美の系譜一

吉備国は現在の岡山県全域と広島県東部、兵庫県西部にまたがる古代国家です。吉備の枕詞として知られる「真金吹く」が示すように、古来より鉄の産地として知られています。奈良時代には律令制に基づき備前・備中・備後・美作の4カ国に分けられましたが、中でも備前国は大きな刀剣の産地として栄えました。

平安時代中期から後期にかけて「日本刀」と呼ばれる形式の刀剣が完成すると、備前に友成や正恒らの刀工が現れました。それ以降、吉井川の流域を中心に多くの鍛冶が居住し、中世には全国最大の刀剣生産量となりました。約500年間にわたるさまざまな鍛冶や流派の消長は、現存する備前刀に多くの紀年銘が残されていることから、その一貫した流れを知ることができ研究の上でも非常に重要な役割を果たしています。

本展では、所蔵する備前刀を年代や流派に分けて展示し、刀工や作品の変遷をたどり、備前刀の美と見どころをわかりやすくご紹介します。美しい地鉄と明るく冴えた刃文、春霞のような映りなど備前刀の魅力を、この機会にご覧ください。

会期：12月21日(金)～5月26日(日) 前後期の展示替えあり



高知城歴史博物館

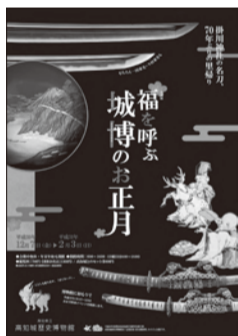
〒780-0842 高知市追手筋2-7-5 ☎088-871-1600
https://www.kochi-johaku.jp/

企画展「福を呼ぶ 城博のお正月」

古来、人は縁起物を飾ったり、身につけたりすることで、福を呼び込もうとしてきました。この企画展では、人々がさまざまな願いを托してきた縁起のよい図柄の絵や文様をあしらった美術工芸品を紹介します。

併せて、当館所蔵の国宝「古今和歌集巻第廿(高野切本)」、重要文化財「太刀 号 一国兼光」「太刀 号 今村兼光」、掛川神社の重要文化財「太刀 銘 国時」「太刀 銘 康光」を展示します。長らく東京国立博物館に寄託されていた掛川神社の太刀2振は68年ぶりの里帰りです。

会期：12月7日(金)～2月3日(日)



國學院大学博物館

〒150-8440 東京都渋谷区東4-10-28 (國學院大學渋谷キャンパス内)
☎03-5466-0359 http://museum.kokugakuin.ac.jp/

特別展「神に捧げた刀 一神と刀の二千年一」

刀剣は、日本の神祭りの長い歴史の中で、神の働きを表したり、神への重要な捧げ物と位置づけられてきました。

本展では、刀剣にまつわる神話や物語が書かれた『古事記』『日本書紀』『平家物語』などに見る“古代祭祀と刀剣”や“伝説”、また“中世東国の武士と神社への信仰”などをテーマに、東国各社の奉納刀を展示し、神や神社と刀剣の関係について、その歴史的背景を明らかにしていきます。

会期：1月22日(火)～3月16日(土)



備前長船刀剣博物館

〒701-4271 岡山県瀬戸内市長船町長船966 ☎0869-66-7767
http://www.city.setouchi.lg.jp/token/

テーマ展「甦った赤羽刀 パート2」

今回の展示は、昨年度行った「甦った赤羽刀展」に引き続き、苦難の時代を乗り越えた赤羽刀を中心に展示

を行います。
会期(2期)：1月5日(土)～2月11日(月・祝)

春日大社国宝殿

〒630-8212 奈良市春日野町160 ☎0742-22-7788
http://www.kasugataisha.or.jp/h_s_tearoom/museum/museum2.html

特別展「清明の美・春日大社の名刀」/ 同時開催「鐵の煌めき 宮入小左衛門行平一門展」

春日大社は平安時代から現代に至るまでの幅広い年代の刀剣を所蔵しています。いずれも御神殿や宝庫に秘蔵されていたもので、各時代を生きたさまざまな人物によって特別な思いを持って奉納された名刀たちです。

本展示では、春日大社の刀剣の中でも特に注目される金地螺鈿毛抜形太刀をはじめ、明治時代の奈良を代表する文化人である中村雅真によって奉納され、初公開となる伝当麻友清の太刀(南北朝時代)など貴重な名刀たちを一堂に展示。

これに併せ、現代刀の発展に大きな足跡を遺した人間国宝の故宮入行平氏の絶作など貴重な作品、そのご子息で相州伝を大成され刀剣界をリードする、宮入小左衛門行平氏と一門の作品をご紹介します。

会期：12月22日(土)～3月24日(日) 前後期展示替えのため2月13日(水)休館



京都浮世絵美術館

〒600-8004 京都市下京区四条通寺町西入奈良物町365 キリハタビル2F
☎075-223-3003 https://www.kyoto-ukiyo-e-museum.com/index.html

將軍と京都/備州長船景光・兼光

文久3年(1863)、第3代將軍徳川家光以来、約230年ぶりに第14代將軍徳川家茂による上洛が行われました。この江戸から京都まで上洛の様子について、文久3年4月から5月の短期間について、幕府の下命によ歌川派16名の絵師が將軍の姿を描くことを許され、25の版元から浮世絵が次々と販売されました。通称「御上洛東海道」シリーズと呼ばれています。

今回の当館での特別展示では、参加した歌川派16名の絵師のうち、8名の絵師が描いた、京都を中心とした畿内の諸国が舞台となった浮世絵を展示します。將軍や天皇の象徴などを華やかに描いた、それぞれの絵師の特徴をお楽しみください。

また、「將軍と京都」展と同時開催として、備州長船景光・兼光の親子の刀剣も特別展示しています。

会期：12月1日(土)～5月31日(金)



関鍛冶伝承館

〒501-3857 関市南春日町9-1 ☎0575-23-3825
https://www.city.seki.lg.jp/kanko/0000001558.html

企画展「関の刀職者たちの技 平成27～30年度赤羽刀修復を通じて」

新しく修復した赤羽刀29点と白鞘5点、錆身の赤羽刀2点を展示し、刀職者17名(研師8名・鞘師5名・白銀師4名)を紹介します。

会期：12月22日(土)～3月4日(月)



老岐市立一支国博物館

〒811-5322 長崎県老岐市芦辺町深江鶴亀触515-1 ☎0920-45-2731
http://www.iki-haku.jp/

特別企画「平戸藩の名刀展」

当館では初めて開催する刀剣展覧会です。平戸藩刀工、初代土肥真了の刀を中心に、平戸藩にまつわる刀剣と刀装具(平戸国重作)などを展

示します。老岐の郷土刀も併せて展示し、平戸藩刀工と老岐の関わりも紹介します。

会期：12月14日(金)～2月11日(月・祝)

京都文化博物館

〒604-8183 京都市中京区三条高倉 ☎075-222-0888
http://www.bunpaku.or.jp/

北野天満宮 信仰と名宝 一天神さんの源流一

平安時代の政治家・漢学者・漢詩人・歌人であった菅原道真公は、死後、天満自在天神として崇められて、現在に至るまで「天神さん」「天神さま」として親しまれています。全国で1万数千社の天神社(道真公を祀る神社)が存在しますが、京都の北野天満宮は総本社として知られています。

天神信仰に関する展覧会はこれまでも行われてきましたが、北野天満宮そのものを取り上げたものは多くありません。北野天満宮が培った長い歴史は、人々の崇敬の歴史と言えるでしょう。時代ごとのさまざまな願いを反映し、北野天満宮には複雑・多様な信仰世界が構築されました。

本展覧会では、北野天満宮が所蔵する神宝を中心に、ゆかりある美術工芸品、歴史資料を一堂に集め、そこから浮かび上がる神社とその信仰のあり方を展覧します。刀剣では重要文化財の「太刀 銘安綱 号鬼切丸(別名髭切)」が出品されます。

会期：2月23日(土)～4月14日(日) 前後期の展示替えあり



平成31年(2019) 謹賀新年 本年もよろしくお願ひ申し上げます

掲載は申し込み順です

刀剣・書画・骨董 株式会社 和敬堂
 新潟県長岡市柏町1-2-16
 TEL 0238-3338511
 FAX 0238-3338510
 URL http://www.wakeidou.com

武蔵国一の宮美術刀剣・骨董品・居合道・古式銃専門店
 有限会社 清水商会
 代表取締役 清水 敏行
 〒330-0802 埼玉県さいたま市大宮区宮町3-7
 TEL 048-644-3477
 FAX 048-647-7434
 URL http://www.surplusleopard.com/

研誠堂
 石塚 孝夫
 〒113-0034
 文京区湯島1-2-1
 TEL 080-5473-0055

刀 永和堂
 朝倉 万幸
 朝倉 忠史
 〒105-0001
 東京都港区虎ノ門3-8-1
 TEL 03-3434-4321

美術刀剣の売買・加工
 株式会社コレクション情報
 代表取締役社長 村上和比子
 岐阜県岐阜市西部本郷1-49
 TEL 058-274-1196

飯田高遠堂
 代表取締役 飯田慶雄
 東京都新宿区下落合3-17-33
 TEL 03-3951-3312
 URL http://www.idakoendo.com

古美術 飯塚 賢路
 〒337-0015
 さいたま市見沼区蓮沼1-004-1
 TEL 048-688-2200
 FAX 048-688-2200
 URL http://www.wakeidou.com

銀座誠友堂
 中央区銀座5-1-1 銀座ファイブ2階
 TEL 03-3558-8001
 URL http://www.seiyudo.com

やしま 齋藤 雅稔
 齋藤 隆久
 東京都西東京市柳沢6-8-10
 TEL 042-463-1531
 FAX 042-463-1795

株式会社 美術刀剣松本
 松本 富夫
 松本 義行
 〒105-0001
 東京都港区清水1-9-11
 TEL 04-7122-1122
 FAX 04-7122-1122
 メール info@tunken-matsumoto.jp

株式会社 舟山堂
 稲留 修一
 東京都千代田区内神田2-4-13 石垣ビルB1
 TEL/FAX 03-5297-8144

(株)日本刀剣
 伊波 賢一
 〒105-0001
 東京都港区虎ノ門3-8-1
 TEL 03-3434-4321

刀剣小道具・甲冑・売買・工作及び相談承ります。
 株式会社 むさし屋
 代表取締役 猿田慎男
 〒590-0025 大阪府堺市堺区向陵東町1-2-19
 TEL 072-251-8600
 FAX 072-257-2885
 URL http://www.musasya.co.jp

株式会社 刀剣柴田
 柴田 光隆
 〒104-0061 東京都中央区銀座5-6-8
 TEL 03-3573-2801
 FAX 03-3573-2804
 URL http://www.tokensibatata.co.jp

美術刀剣研磨業
 美術刀剣研処 世田谷文永洞
 刀剣研磨業 塩川 二郎
 〒150-0051 世田谷区弦巻5-16-17
 TEL 03-3439-5061
 メール js2017@starocho.ne.jp

(株)丸英刀剣
 銀座 丸英
 栃木県小山市乙女3-7-30
 東京都中央区銀座7-13-22 友野ビル1階
 URL https://maruhidefouken.com

川越 優古堂
 三浦 優子
 埼玉県川越市新宿町1-9-13
 TEL 049-124-9107
 FAX 049-124-9107

高吉 高島 吉童
 代表 高島 吉童
 東京都北区滝野川7-16-16
 TEL 03-5539-4111
 FAX 03-5539-4111
 URL http://www.premi.co.jp

美術刀剣 勝武堂
 東京都中野区本町4-45-10
 TEL 03-3381-3071
 URL http://www.shoubudo.co.jp

刀剣・古美術 蔵田美術
 代表 倉田 藤彦
 東京都豊島区東池袋4-23-6
 TEL 03-3989-1857
 FAX 042-965-3303

拵合せ致します
 日本刀鞘師 水野 美行
 〒160-0002
 東京都新宿区四谷坂町6-1
 TEL 03-3353-8810

御刀研磨処 楽屋 御刀研磨処 楽屋で検索
 研師 平井 隆守
 岐阜県関市清水町
 TEL/FAX 0575-251-0928
 メール onkatana@d6.dion.ne.jp
 URL http://www.hidome.jp/~katanaka/

刀剣研師 白木 良彦
 〒135-0045
 東京都江東区古石場1-2-17
 TEL 03-3643-3228

株式会社 眞玄堂
 〒101-0044
 東京都千代田区鍛冶町1-7-17
 TEL 03-3252-7844
 FAX 03-3251-1419
 メール info@sanuraigallery.com

奈良県無形文化財保持者
 月山 貞利
 〒633-0073
 奈良県桜井市大字茅原2-28-8
 TEL 0744-431733
 FAX 0744-431733
 記念館 42-33230

刀剣・新古美術品
 株式会社 宝古堂美術
 代表取締役 山田雄一郎
 東京都目黒区上目黒1-1-6
 TEL 03-3792-0008

刀剣・古美術 宗亨庵
 村中 亨
 富山県高岡市江尻1-23-5
 TEL 0766-281-2220
 FAX 0766-281-2217

刀剣・古美術 古書画 (株)日宝
 代表取締役 田澤 二郎
 〒160-8321
 東京都新宿区西新宿1-1-4
 京王百貨店新宿店6階 刀剣サロン
 TEL 03-5321-5301(直通)

ギャラリー みそのう
 御園生 敏明
 〒136-0071
 東京都江東区亀戸2-8-6 長谷川ビル1階
 TEL 03-5626-6967
 FAX 03-5626-6134

つるぎの屋
 冥賀 亮典也
 東京都北区西ヶ原4-35-11
 TEL 03-3576-1753
 FAX 03-3576-8419

札幌 横山美術
 横山 忠司
 〒060-0053
 北海道札幌市中央区南三条東1-6
 TEL 011-251-1765
 FAX 011-251-1788

浅草観音裏
 美術・骨董・書画・工芸・刀剣・鎧
 (株)晴雅堂 清水
 〒111-0032 台東区浅草2-30-11
 TEL/FAX 03-3842-3777

武家文化の美と心
 刀剣ギャラリー 樹林
 代表 森野 幸男
 〒803-1081
 北九州市小倉北区室町2-2-15
 TEL/FAX 093-5611-0449

刀剣・古美術 古書画 (株)日宝
 代表取締役 田澤 二郎
 〒160-8321
 東京都新宿区西新宿1-1-4
 京王百貨店新宿店6階 刀剣サロン
 TEL 03-5321-5301(直通)

毎月20日開催
 西日本甲冑交換会
 出品随時受付中
 事務局 岡山県岡山市北区柳町1-4-8 2F
 TEL 03-5335-0851
 携帯 090-3315-1979
 日本刀 簀谷 大輔

刀剣・古美術 古書画 (株)日宝
 代表取締役 田澤 二郎
 〒160-8321
 東京都新宿区西新宿1-1-4
 京王百貨店新宿店6階 刀剣サロン
 TEL 03-5321-5301(直通)

株式会社 山城屋
 代表取締役 嶋田伸夫
 東京都豊島区東鴨1-21-8
 TEL 03-3942-2701

刀剣鑑定書発行業務
 一般社団法人 倉敷刀剣美術館
 代表理事 佐藤 均
 〒710-1101
 岡山県倉敷市茶屋町1-7-3
 TEL 086-420-0066

銀座日本刀ミュージアム 泰文堂
 川島 貴敏
 〒104-0061
 東京都中央区銀座6-7-16 岩月ビル2階
 TEL 03-3289-1336
 FAX 03-3289-1336
 メール taiundo@taiundo.jp
 URL https://www.taiundo.com

刀剣の店 玉山名史刀
 玉山村祐司・真敏
 岡山市北区田町1-1-1
 TEL/FAX 086-227-4188
 URL http://www.touken.com

木村美術刀剣店
 木村 義治
 群馬県高崎市萩原町4-8-10
 TEL 027-352-1159
 FAX 027-352-1159

日本刀の 店主
 江州屋 小暮 昇一
 〒299-1315
 滋賀県愛知郡愛荘町香掛80-11
 電話 0749-42-5106
 携帯 090-3162-7641
 URL http://www.gosshu-yashonomon.com

大和美術刀剣
 大西 康一
 さいたま市南区大谷口5-27-7
 TEL 048-875-2122

銀座 盛光堂
 齋藤 恒
 東京都中央区銀座8-11-14 盛光堂ビル
 TEL 03-3569-2251(代)
 URL http://www.ginzaseichodo.com

刀剣美術 静心堂
 芦澤 一幸
 〒272-0826 千葉県市川市真間2-1-26
 TEL/FAX 047-321-1103

株式会社 金丸刀剣店
 金丸 一三
 東京都大田区東雪谷2-28-10
 TEL 03-3728-3323

刀剣の店 玉山名史刀
 玉山村祐司・真敏
 岡山市北区田町1-1-1
 TEL/FAX 086-227-4188
 URL http://www.touken.com

刀剣古銭切手古美術品 売買
 (株)城南堂古美術店
 代表取締役 田中 勝憲
 東京都目黒区上目黒4-31-10
 TEL 03-3710-6776
 携帯 090-33208-9612